

サイバーセキュリティに関する 近畿総合通信局の取組

資料4-3



2024年3月

近畿総合通信局サイバーセキュリティ室

地域セキュリティ組織「関西サイバーセキュリティ・ネットワーク」(2018年10月設置)

事務局：近畿総合通信局、近畿経済産業局、(一財)関西情報センター

参加団体等：業界・経済団体(関経連、関西経済同友会、商工会議所(大阪、京都、神戸)、JNSAなど)

企業(NTT西、NEC、日立、関電、大阪ガス、JR西、管内放送局、損保など)

大学(神戸大、奈良先端大、立命館大など)、自治体、NISC、NICTなど 計72機関(2024.3.1現在)



今年度は、当ネットワーク構成員と共に、次の3者に対する取組を実施

①自治体・公立病院	②学生・若年層	③中小企業
市長会・町村会に 当局局長等が直接出席し ・CYDERの定期的な活用、 ・DAEDALUSによるリスク管理、 を紹介し利用促進	本省施策を活用し、 企業・大学等と連携しながら、 ・セキュリティを学ぶ学生等 のスキル向上、 ・セキュリティ人材の裾野拡大、 に向けたイベントを開催	本省施策を活用し、 中小企業のほか、商工会議所等の 伴走型支援で活動する経営指導員 に対して、 ・セキュリティリスクの認知、 ・平時と緊急時の対処方策、 に関するセミナーを開催

対象者	自治体・公立病院
課題	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 多くの自治体では、情報システム担当職員は少人数か兼務。担当職員が、定期的にCYDERへ参加できるような意識付け。 ➤ 当局管内での公立病院でのランサムウェア感染事案を踏まえ、公立病院がCYDER及びDAEDALUSへ参加する意識付け。
対応	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市町村長への担当職員の派遣を働きかけ ➤ 公立病院への施策紹介、参加を働きかけ
連携先	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市長会・町村会事務局 ➤ 公立病院の情報担当、県庁の病院担当部局
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 市長会・町村会においてCYDER及びDAEDALUS等を説明 大阪府、京都府（市長会のみ）、奈良県、滋賀県、 兵庫県（町村会のみ）（2023年5月～9月） ※和歌山県は県主催会議にて資料配付 ● 公立病院向けにCYDER及びDAEDALUSの説明会を実施 （2023年2月、6月）

対象者	学生・若年層
課題	<ul style="list-style-type: none"> ▶ イベントへの集客、参加メリットの確保 ▶ セキュリティ以外の幅広い分野・経験を有する学生も参加メリットを感じられるイベント構成
対応	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 会場とオンラインのハイブリッド形式での開催 ▶ 著名な研究室や大学CTFサークルとの協力（学生口コミ） ▶ 過去のイベントでつながった関心の高い学校への周知 ▶ 運営側への学生の参加（作問） ▶ 参加者の知見に応じたレベルの異なる問題を設定
連携先	<ul style="list-style-type: none"> ▶ NTT西日本、NICT、IPA ▶ 大阪大、神戸大、立命館大 等 ▶ IT専門学校、高等専門学校（周知関係） 等
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティの知識の向上等による裾野拡大に向け、学生等を対象としたCTFを開催 <ul style="list-style-type: none"> 2023年6月 西日本横断サイバーセキュリティ・グランプリ https://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/topics/01sotsu07_01002069.html 2023年12月 学校対抗CTF大会 https://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/topics/01sotsu07_01002140.html 2024年2月 CTFワークショップ in 大阪 https://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/topics/01sotsu07_01002157.html

開催概要

学生を対象にCTF (Capture the Flag) を通じて、サイバーセキュリティ知識を高め技術を研鑽し人材の裾野拡大のため、本イベントを開催。高校～大学院の学生 313名 (会場44名、オンライン269名) が参加

講演



国立研究開発法人情報通信研究機構サイバーセキュリティ研究所
副研究所長 井上 大介 氏

『サイバーセキュリティ研究への道 ～めざせ！何かの世界一！～』
NICTにおけるNICTER等の技術紹介のほか、
「学生のうちに、どんな分野でもいいので世界一を取れるよう
努力してほしい。世界一を取ると新たな景色が見られ、
また、今後の人生において他の分野を追究する際の糧になる。」
と、自身の経験を交えながら講演。

CTF

初心者コース 76組、上級者コース 41組が参加 (1組 最大 3 名)。

【協力】 猪俣敦夫氏 (大阪大学教授)、上原哲太郎氏 (立命館大学教授)
小出洋氏 (九州大学教授)、森井昌克氏 (神戸大学大学院教授)
大阪大学CTFサークル、名古屋大学CTFサークル
NTT西日本、マクニカ、WEST-SEC

【結果】 上級者コース  筑波大、②筑波大、③大阪大OB、④大阪大、
⑤立命館大、⑥東京工業大、⑦岡山大、⑧大阪大、⑨神戸大、
⑩電気通信大
初心者コース  電気通信大、②HAL東京、③灘高校・中学、
④東北大、⑤香川大、⑥HAL大阪、⑦早稲田大、⑧神戸工専、
⑨大阪情報コンピュータ専門学校、⑩大阪大



対象者	中小企業
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ セミナーや演習への未参加中小企業に対するアプローチ ➤ 中小企業（特に経営者層）が経営・資金繰り・税務等に関して積極的に繋がっている者との関係構築 ➤ サイバーセキュリティの危機感が記憶に残るイベント構成
<p>対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域セキユニティ組織参加団体に対して中小企業向け支援の枠組みを活用した周知活動（商工会議所による伴走支援の中での経営指導員による注意喚起）を働きかけ ➤ 当局局長による商工団体幹部への個別訪問を契機に関係構築 ➤ インシデント発生時の発生コスト、社内外での対処法を紹介
<p>連携先</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 商工会議所中小企業支援部（経営指導員） ➤ 学識者、NPO日本ネットワークセキュリティ協会 ➤ 関西経済連合会、組込みシステム産業振興機構（周知）等
<p>取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 京都商工会議所と連携し、経営支援員を対象とするサイバーセキュリティ・セミナーin京都を開催（2024.1.31） 【R6年度も経営支援員向け研修として継続実施】 ● インシデント演習の開催（2024.2.21）

サイバーセキュリティ・セミナーin京都 2024.1.31

講演1 「サイバーセキュリティ」

大阪大学情報セキュリティ本部教授 猪俣 敦夫 氏

中小企業が理解しておくべきサイバーセキュリティに対する基本的な考え方を説明



講演2 「インシデント（事故）発生時の損害額について」

日本ネットワークセキュリティ協会 調査研究部会
インシデント被害調査WGリーダー 神山 太郎 氏

「インシデント損害額調査レポート」を基に、ランサムウェアによるサイバー攻撃を受けたときの一般的な対応の流れや発生コストを説明



インシデント演習in大阪 2024.2.21

講演 「サイバー攻撃の情勢及び対応策について
～サイバー攻撃から事業を守るために考えるべきこと～」
株式会社川口設計代表取締役 川口 洋 氏

インシデント発生後の事業の継続のために、企業が考えるべき組織的な対応と技術的な対応について説明



演習 「フィッシングサイト経由での情報漏洩事案」

川口講師から、インシデント事案の予兆、発覚、経営管理者対応、社外対応などあらゆる状況下での対処案をグループで討議



取組の評価

自治体・公立病院	市長会及び町村会への働きかけ後には、CYDERに関する個別の問い合わせが複数あり、受講に対する意識付けはできた。 トップへの働きかけを通じて、サイバーセキュリティへの認識を持ってもらうことが効果的。
学生・若年層	全てのイベントにおいて、「大変良い」と「良い」の回答が合わせて8割を超えている。今後も同様のイベントを開催してほしいといった声も複数あり、当局に対する学生の期待も大きい。
中小企業	インシデント演習は当初の定員を上回る希望があり、急遽枠を増設して実施。終了後も講師に質問をしたり、参加者の意識の高さを感じた。

今後の展望

引き続き「自治体・公立病院」、「学生・若年層」、「中小企業」に対して、地域セキュリティ組織と連携した普及啓発に取り組む。関係者との意見交換では、

- ①学生向けの取組では、社会人との接点を設け、サイバーセキュリティは理系の仕事(システム運用から監視など)に限らず、文系の仕事(社内ルール作りなど)に及ぶ幅広いテーマであることを知る機会の提供との意見があった。
- ②中小企業向けの取組では、実演や参加者が実機に触れる機会提供等、目新しいものを求める意見があった。一方、従来と同じ内容を繰り返す地道な啓発が必要との意見もあった。

<https://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/cyber/kansaicyber.html>

過去の取組一覧

3. 主な取組

○令和5年度

- 令和6年2月21日
[「サイバーインシデント演習in大阪」を開催](#)
[「サイバー攻撃による中小企業の被害を最小限にとどめるために」](#)
- 令和6年2月19日
[IT・セキュリティ担当者向け\(リスク分析ワークショップ\)](#) (近畿経済産業局Webサイト)
- 令和6年2月17日
[学生向け「CTFワークショップin大阪」を開催](#)
[「ゲーム形式でサイバーセキュリティを体験してみよう」](#)
- 令和6年1月31日
「サイバーセキュリティセミナーin京都」を開催
【トピックスに[開催結果](#)を掲載しました】
- 令和5年12月16日
[学生向け「学校対抗CTF大会」を開催](#)
[「集まれ未来のサイバーセキュリティ人材」](#)
【トピックスに[開催結果](#)を掲載しました】
- 令和5年10月26日
[経営者層向け\(インシデント対応机上演習及びIT・セキュリティ担当者向け\(リスク分析ワークショップ\)\)](#) (近畿経済産業局Webサイト)
- 令和5年10月4日
[これだけは押さえておくべきDXとサイバーセキュリティセミナー](#) (近畿経済産業局Webサイト)
- 令和5年8月22日～9月26日(全8回)
[「第8回サイバーセキュリティリレー講座\(初級者向け\)」](#)

開催結果

学生向け「学校対抗CTF大会」を開催(2023.12.16)

2024年1月15日 掲載

関西サイバーセキュリティネットワーク事務局^{※1}は、2023年12月16日(土)に大阪市内の会場及びオンラインで、サイバーセキュリティに興味がある学生等を対象に、セキュリティ人材の裾野を広げることを目的として「学校対抗CTF^{※2}大会」を開催し、会場44名、オンライン269名の方にご参加いただきました。

冒頭、主催者を代表し、近畿総合通信局の菱沼局長が「我が国のサイバーセキュリティ人材は質的にも量的にも不足していると言われている中、人材育成の推進は重要であると認識しており、本日はこのように多くの方にご参加いただき大変嬉しく思っている。本イベントが皆様のサイバーセキュリティの知識向上や技術の研鑽に繋がれば幸いです。」と開会の挨拶を述べました。



近畿総合通信局 菱沼局長

講演

国立研究開発法人情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所 副研究所長の井上 大介 氏に「サイバーセキュリティ研究への道 ～めざせ！何かの世界ー！～」と題して講演を行っていただきました。同研究所で研究・開発されたシステムであるNICTER(ニクター:サイバー攻撃をリアルタイムで大規模観測・分析するシステム)、DAEDALUS(ダイダロス: NICTERの観測結果を活用したアラートシステム)やNIRVANA(ニルバーナ:サイバー攻撃統合分析プラットフォーム)等における、実際のネットワーク観測の様子を紹介いただきました。井上氏は、自身の体験を交えながら「学生のうちに、どんな分野でもいいので世界一を取れるよう努力してほしい。世界一を取ると新たな景色が見られ、また、今後の人生において他の分野を追究する際の糧になる。」と述べられました。